授業　大竹市立大竹中学校

研修グループ　Ｃグループ

　廿日市市立廿日市中学校

　江田島市立江田島中学校

　府中町立府中緑ヶ丘中学校

　坂町立坂中学校

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **教科名 社会科** | **第２学年** | **授業　大竹市立大竹中学校** | **研修グループ　Ｃグループ** |

**本単元で育成する資質・能力　　　　主体性　　　思考力・判断力・表現力**

**単元名**

東北地方

-伝統工芸品の生産・販売とその変化

１　学　級 第２学年３組（男子16名，女子16名　計32名）

２ 場 所 ２年３組

３　単元名 東北地方　伝統工芸品の生産・販売とその変化

４　単元について

＜単元観＞

本単元は，中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編地理的分野（２）内容Ｃ－(3)「日本の諸地域」の内容である。「日本の諸地域」では，日本を幾つかの地域に区分しそれぞれの地域について，自然環境，人口や都市・ 村落，産業，交通や通信，その他の事象を中核とした考察の仕方を基にして，空間的相互依存作用や地域などに着目して，主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して，地域的特色や課題についての知識を身に付けさせ，他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し，表現できるようにさせることを主なねらいとしている。

本単元の東北地方では，（内容の取扱い）ウ－(ｲ)の考察の仕方に留意し，「⑤　生活・文化を中核とした考察の仕方」を基にして学習を進める。

東北地方は，伝統的な生活や文化が多く継承されている。そこには，伝統的な生活や文化を守ろうという人々の思いだけではなく，生活の変化やグローバル化に対応しながら，形を変えることで受け継がれているものもある。そこで，単元を貫く問いとして「厳しい自然環境から生まれた伝統的な生活・文化を残すためにどのような工夫がされているか」と設定した。この問いで，伝統的な生活や文化の継承という東北地方の生活・文化に着目させながら，東北地方の地域的特色を捉えていきたい。

単元計画

【本質的な問い】

地理的事象と人々の生活はどのように影響し合っているのだろうか。

【中項目を貫く問い】日本の諸地域

日本の地域的特色と人々の生活はどのように影響し合っているのだろうか。

【単元を貫く問い】東北地方

東北地方では，厳しい自然環境から生まれた伝統的な生活・文化を残すためにどのような工夫がされているか。

【個別の問い】各授業のＭＱ

・東北地方の自然環境の特色とはどのようなものか。

・様々な過去の災害の教訓をどう生かしているか。

・自然環境と伝統的な生活や文化はどのように繋がっているか。

・自然環境を生かした伝統的工芸品はどのように変化しているか（本時）。

・東北地方では，厳しい自然環境から生まれた伝統的な生活・文化を残すためにどのような工夫がされているか。

（中項目「日本の諸地域」学習計画）

【中項目を貫く問い】日本の諸地域

〇日本の地域的特色と人々の生活はどのように影響し合っているだろうか。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習する地域（配当時間）【考察の仕方】 | 小単元の中心となる問い | 鍵となる概念や知識 |
| 中国・四国地方（５時間）【交通・通信】 | 「中国・四国地方では，交通・通信網が人々の生活とどのように関係しているか。」 | 気候（日本海側の気候・瀬戸内の気候・太平洋の気候）　都市化による開発　本州四国連絡橋　自然災害　豪雪　干害　西日本豪雨　大雨　土砂災害　防災・減災 |
| 関東地方（５時間）【交通・通信】 | 「関東地方が他の地域との結び付きが強いのはなぜだろうか。」 | 東京一極中心　東京大都市圏　政治・文化・経済の中心　交通網（地域・日本・世界とのつながり）帰宅難民　関東大震災　首都直下型地震 |
| 近畿地方（５時間）【人口】 | 「近畿地方では，なぜ都市や農村の姿が変化してきたのか。」 | 京阪神中心　環状線・ターミナル駅人口分布　滋賀・奈良北部→ベットタウンショッピングモール紀伊山地・日本海側→過疎化琵琶湖の環境保全　台風　阪神淡路大震災 |
| 中部地方（５時間）【産業】 | 「中部地方では，地域によってどのように産業が発展してきたのだろうか。」 | 北陸地方：米作り　伝統産業　中央高地：果樹　精密機器　東海地方：工業　輸送用機器　輸出入　富士山噴火 |
| 九州地方（５時間）【生活・文化】 | 「九州地方では，自然環境と共存するためにどのような取組をしているか。」 | 公害病　ヒートアイランド現象自然を生かした産業　　持続可能な地域づくりゲリラ豪雨　水害　洪水　台風が多い　火山活動 |
| 東北地方（５時間）【生活・文化】 | 「東北地方では，厳しい自然環境から生まれた伝統的な生活・文化を残すためにどのような工夫がされているか。」 | 農業「日本の穀倉地帯」　果樹栽培　農閑期に伝統産業　祭り（五穀豊穣を願って）　東日本大震災　冷害（やませ） |
| 北海道地方（５時間）【自然環境】 | 「北海道地方では，冷涼で広大な自然をどのように開発してきたのだろうか。」 | 広大な土地　冷涼な気候　豊かな自然　自然に適応した暮らし　開拓の歴史自然を生かした農業・水産業豪雪・豪雨 |

【中項目を貫く問いの答え】日本の諸地域

南北に長く，山がちな国土を持つ日本列島は，地域によって自然環境が大きく違うため，人口や生活・文化も違いが生まれる。その生活・文化に合わせた産業が生まれ，発展した。人々は，より便利で豊かな生活を実現するために，交通や通信を整備することで他地域や世界と繋がろうとした。

中項目の指導と評価について，生徒の考察のし易さ，次単元のつながり，学ばせたい視点に留意しながら次のように計画した。

次単元の「地域の在り方」で学校所在地である大竹市を舞台に発生する自然災害や防災・減災に向けての人々の生活の工夫を視点に学習を進める予定であるため，それぞれ学習する地域で，自然災害や防災・減災について触れるようにした。

全体の流れとしては，「人や物の流れ」と「自然環境，生活・文化」の２つの段階に分けて学習を展開する。第１段階の「人や物の流れ」について，１番目に「交通・通信と人々の関係性」の視点で中国・四国地方を学習する。学習を展開する上で，身近な地域から先に学習することで日本の諸地域の学習に取り組みやすいのではないかと考え，このように計画をした。２番目に「ほかの地域との結び付き」の視点で関東地方を学習する。３番目に「人口の偏り～都市・農村の姿の変化～」の視点で近畿地方を学習し，４番目に交通・通信，人口によって「どのような産業が発展したか」の視点で中部地方を学習する。

第２段階の「自然環境，生活・文化」について，第１段階の学習内容をふまえて，５番目に「自然環境と共存するためにどのような取組をしているか」の視点で九州地方を学習し，６番目に「厳しい自然環境から生まれた伝統的な生活・文化を残すためにどのような工夫がされているか」の視点で東北地方を学習する。最後に九州，東北地方での学習の深まりを期待して「冷涼で広大な自然をどのように開発してきたのだろうか」という視点で北海道地方を学習することにした。

本単元の授業実施に当たり，事前に行ったアンケート等の結果は以下のとおりである。

（令和４年10月実施　２年生95名対象 ）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 質問事項 | 肯定的 | 否定的 |
| 社会の勉強は好きです。 | 77.5% | 22.5% |
| 社会の授業が好きです。 | 93.4% | 6.6% |
| 社会の授業では，自分の考えを話し合う時に理由を挙げて説明しています。 | 66.4% | 33.6% |
| 社会の授業では，目的に応じて資料を読み，自分の考えを話したり，書いたりしています。 | 90.6% | 9.4% |
| 自分の考えや意見が正しいのかどうか根拠をもって他者に発信することができます。 | 39.8% | 60.2% |
| 東北地方に属する県をすべて答えることができます。 | 42.8% | 57.2% |
| 東北地方について，自分が知っていることを５つ以上答えることができます。 | 20.5% | 79.5% |

＜生徒観＞

令和４年度前期学校評価での，社会の授業が分かりやすい・楽しいというアンケート項目において，肯定的意見が91％であり，学習に対して意欲的かつ積極的に取り組んでいる生徒が多いということが分かった。実際に，２学年社会科で独自に行ったアンケートにおいて，社会科の授業に関しては，93％の生徒が積極的に取り組んでいる。また，90％の生徒が目的に応じて資料を読み，自分の考えを話したり，書いたりすることに肯定的である。しかし，根拠をもって他者に発信することに60％の生徒が否定的であることから，根拠に関しては，自信が持てない生徒が多く，論理的な解答を導き出すところまで至っていないのが現状である。このことから，何を根拠とするべきかがわからず，十分な説明に至っていないものと考えられる。また，生徒は，東北地方について知っていることが少なく，興味関心が低いという結果が得られた。

＜指導観＞

　生徒が根拠を持って他者に発信するために次の４つの手立てを講じる。

①複数の資料を提示し，生徒たちの意見の根拠となる資料を生徒自身に選択する場を設定する。

②グループでの交流を取り入れ，生徒同士で教え合う場を設定する。

③他者に発信するための話型を提示する。

④資料から読み取ったことをまとめる際に，どの資料から読み取ることができたのかを明記させる。

生徒が東北地方について，興味関心を持つために次の３つの手立てを講じる。

①東北地方で伝統工芸品が盛んな理由を既習事項である北陸地方で学んだことを踏まえて考えさせる。

②東北地方に係る実物教材を提示する。

③複数の伝統工芸品を比較し，既有知識との「ずれ」を生み出す。

７　単元の目標

・東北地方について，その地域的特色や地域の課題を理解する。

・生活・文化を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と，それに関連する他の事象や，そこで生ずる課題を理解する。

・東北地方において，生活・文化の成立条件を，地域の広がりや地域内の結び付き，人々の対応などに着目し，他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察，表現する。

・東北地方について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。

８　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・東北地方について，その地域的特色や地域の課題を理解している。・生活・文化を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と，それに関連する他の事象や，そこで生ずる課題を理解している。 | ・東北地方において，生活・文化の成立条件を，地域の広がりや地域内の結び付き，人々の対応などに着目して，他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・東北地方について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 |

９　指導と評価の計画（全５時間　４／５　本時）

【小単元を貫く問い】

東北地方では，厳しい自然環境から生まれた伝統的な生活・文化を残すためにどのような工夫がされているのか。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 評価規準 |
| １ | １　東北地方をながめて　東北地方の地形と人々東北地方の気候と人々 | 〇東北地方について，地形図や，写真などの資料から概観し，基礎的・基本的知識を身に付ける。〇東北地方の地域的特色を理解するために，「東北地方では，厳しい自然環境から生まれた伝統的な生活・文化を残すためにどのような工夫がされているのか」という単元を貫く問いを立て，見通しをもって主体的に追究する。 | 〇山地が多く東西で大きく異なる気候，盛んな農業，鉄道や道路の路線に集中する人口などの特色を理解している。（知・技）〇伝統的な生活・文化を中核とした考察の仕方に基づいて設定した単元を貫く問いの答えを予測し，見通しをもって主体的に追究していこうとしている。（態度） |
| ２ | ２　東北地方をながめて繰り返す地震や津波の被害教訓を伝え，引き継ぐ新しいまちや社会をつくる | 〇東北地方で繰り返されてきた地震や津波の被害に着目し，被災した人々が残した教訓について理解する。〇東北地方の生活・文化と不可分な災害の歴史と教訓を通して，先人の思いや今後の社会の在り方について考察する。 | 〇東日本大震災の被害の経験について関心を持ち，過去の災害の教訓がどのように生かされているのかを理解している。（知・技）〇石碑や伝承などを通して，人々がどのような思いで災害の教訓を受け継ぎ，未来へ向けて生かそうとしてきたのか，多面的・多角的に考察し，表現している。（思・判・表） |
| ３ | ３　祭りや年中行事の伝統とその変化いましめと祝いの民俗行事農家の生活と結び付いた夏祭り気候に応じた食文化 | 〇東北地方の生活・文化について，伝統的な民俗行事の資料を通して理解する。〇東北地方の伝統行事や習慣を通して，自然環境や歴史的背景，産業などの地域的特色を理解する。 | 〇祭りをはじめとする独特の民俗行事や習慣を示す写真資料を通して，東北地方の生活・文化の特色を理解している。（知・技）〇伝統行事や食文化，習慣と，農業や気候との関連を通して，東北地方の地域的特色を理解している。（知・技） |
| ４本時 | ４　伝統工芸品の生産・販売とその変化地域の資源と結び付いた伝統工芸世界の市場と結び付いた伝統工芸社会の変化と結び付いたものづくり | 〇伝統的な産業が，世界市場や社会の変化と結び付きながら変化し，発展していることを考察する。 | 〇東北地方の産業の課題や転換について，時代や社会の動きなどと関連付けて，多面的・多角的に考察している。（思・判・表） |
| ５ | ■基礎・基本のまとめ　東北地方をふり返ろう■まとめの活動　東北地方を活性化する「イベント」を企画しよう | 〇東北地方の生活・文化の成立条件を，地域の広がりや地域内の結び付き，人々の対応などに着目して，東北地方で伝統的な生活・文化が守られ，継承されてきた理由を多面的・多角的に考察する。〇よりよい社会の実現を視野に，東北地方の学習内容を振り返って単元を貫く問いを主体的に追究する。 | 〇東北地方で伝統的な生活・文化が守られ，継承されてきた理由を多面的・多角的に考察し，その過程や結果を生かして，「東北地方を活性化させるイベント企画」という形で具体的に表現している。（思・判・表）〇単元冒頭に立てた予想を始めとする自らの学習を振り返りながら，粘り強く考察することを通して主体的に単元を貫く問いを追究し，社会に関わろうとしている。（態度） |

【小単元を貫く問いの答え（まとめの例）】

東北地方では，伝統的な生活・文化を残すために環境の変化に合わせて形を変えているものがある。例えば，伝統行事や伝統産業については，他の地域に住む人を呼び込み，利益を得るために，より多くの人に興味・関心を持って参加したり，購入したりしてもらえるように工夫している。

10　本時の目標

東北地方の伝統産業や地場産業が，世界市場や社会の変化と結び付きながら変化し，発展していることを考察することができる。

11　本時の学習展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動Ｔ：主な発問・指示，Ｃ：予想される生徒の反応 | 指導上の留意事項★配慮を要する個への支援 | 評価規準（評価方法）◇思考を深めるための手立て |
| 導入 | Ｔ：伝統的工芸品には何があるだろうか？Ｃ：・手漉き和紙　・輪島塗　　・熊野筆　・宮島しゃもじ　　・丸亀うちわＴ：東北地方の伝統的工芸品の資料を見せる。Ｃ：・デザインが全然違う。　　・色が違う。　・かわいい。　　・同じ物なのか？本時のねらい資料から，「どのように伝統工芸品が変化してきたのか」を，根拠を持って説明できる。 | ・既習事項の確認。・伝統的な形のものと現在の形の物を比較させ，生徒の疑問をもたせる。 |  |
| 展開 | Ｔ：東北地方ではどのような伝統的工芸品が作られ，なぜその地域では伝統産業が盛んなのか？Ｃ：冬に雪がたくさん降って，農業ができないから。ＭＱ：自然環境を生かした伝統工芸品はどのように変化しているか。Ｔ：資料を基にして，伝統産業はなぜ変化しているのかを考えてみよう。資料を配付する。　　１・２班には視点１の資料　　３・４班には視点２の資料　　５・６班には視点３の資料を配付　　個人で資料を読み取ったことをワークシートに書き出し，タイトルを付けよう。Ｔ：班を作って，タイトルと意見を共有し，タイトルをホワイトボードに記入して，黒板に掲示しよう。Ｔ：班ごとに発表させる。その際に他の班の資料をタブレットで配付する。Ｃ：発表を聞きながら，メモをワークシートにとる。Ｔ：発表内容と資料を基にＭＱについて自分の言葉でまとめさせる。Ｃ：（例）冬に雪がたくさん降って，農業ができないために始まった伝統産業は，国内だけでは売れにくくなったので，海外にも目を向けるようになった。そして，国内の消費量よりも海外での消費量の方が上回る伝統工芸品もあらわれるようになった。また，時代に合わせて，製品が開発されるようになり，形を変えて受け継がれているものもみられるようになった。Ｔ：まとめたことを発表させる。　　　　　板書をする。Ｃ：ワークシートに他者の発表のまとめを記入する。 | ・北陸地方の既習事項を思い出させる。資料を提示（タブレットに資料を提示）

|  |
| --- |
| 資料１：南部鉄器の輸出額の移り変わ　　　　　　　り資料２：伝統工芸品の生産額の変化資料３：伝統産業の従事者の変化資料４：伝統的工芸品の取扱説明書(外国語版)資料５：伝統産業の認知度の資料資料６：コラボ商品資料７：伝統産業のネット販売　　（視点１と視点３で別資料提示） |

視点１：海外向け生産の資料　　　　→資料１，４，７視点２：伝統産業の衰退　　　　→資料２，３，５視点３：伝統産業の新たな挑戦　　　　→資料６，７★机間指導を行い，資料の読み取りが難しい生徒に読み取り方を伝える。★表現することが苦手な生徒に対して，机間指導を行う中で，キーワードとなる語句を伝え，生徒の言葉で振り返りができるようにフォローする。 | ◇班ごとに資料を指定することでねらいの達成に近づける。◇複数の資料をもとに，根拠を見つける。東北地方の産業の課題や転換について，時代や社会の動きなどと関連付けて，多面的・多角的に考察している。（思・判・表）班活動・ワークシート |
| まとめ５分 | Ｃ：本時の振り返りをワークシートに記入する。 | 本時のめあてについて，自分の言葉でまとめ，振り返りをさせる。 |  |

12　板書計画

|  |
| --- |
| 本時のねらい　資料から，「どのように伝統工芸品が変化してきたのか」を，根拠を持って説明できる。ＭＱ：自然環境を生かした伝統工芸品はどのように変化しているか。生徒のまとめ・昔は寒さや雪などで小物などを製作していたが，農業の発展や工芸品に替わるものが増えてきて，売れなくなる可能性があるので，海外にも展開している。・現役職人数が減ってきていて，生産額や認知度も減ってきているので，このままでは伝統工芸品が途絶えてしまうかもしれないので，コラボ商品や海外への進出を行うなどの工夫をして，伝統工芸品を絶やさないようにしている。生徒が考えたタイトル視点１：「世界に広がる伝統産業ヒットなるか？」視点２：「今も減少中！？伝統工芸品の生産額」視点３：「売り上げ増加！コラボ商品」 |